



はなのき通信

2021年2月 発行 第150号

編集・発行：あいち国際交流はなのき会

URL <http://www.aichinet.ne.jp/~hananoki/>

Eメール hananoki@aichinet.ne.jp



新たなる一歩へ

知多ブロック 渡辺順子（会計）

「人生は“まさか”の連続である」はどこかで耳にした言葉ですが、コロナ禍でこんなにも長く厳しい生活が続くとは思ってもみませんでした。はなのき会でもスタディーツアーが2年連続で中止になりました。とても残念です。人生は一方通行で後戻りできませんが、先々の時間の捉え方は変えることができます。私は昨年在籍30年の表彰をいただきました。はなのき会という世界を通してすばらしい方と出会い、そしてつながりが広がって、多くの刺激を受けて私の活力となっています。皆様に感謝、感謝です。我以外皆わが師です。私は約25年前から心身の健康を目指して太極拳を学んでいますが、大先輩から

- 1、からだの健康とは苦痛からの解放
- 2、こころの健康とは情念からの解放
- 3、いのちの健康とは利己主義からの解放

の3項目を教えていただきました。この教えを胸に刻み、現在も太極拳活動に取り組んでいます。また、「50歳まではスポーツに、武術に、知識の吸収にと大いに青春を謳歌し、50歳以降はわが内なる生命のエネルギーを日々高めながら、人生の仕上げの時となる」という教えも受けています。後期高齢者になった今、これからも目標と学びの意欲を持ち続けて人生の仕上げをしていきたいと思っています。

SDGs de 地方創生

2021年12月14日（火） 13:30～15:00 会場：東海市荒尾町 西方寺

参加人数：16名 講師：伊藤彰宏氏（ファシリテーター）



ゲームによるSDGs de 活動の疑似体験

知多ブロック活動報告

SDGs de をより親しみやすく興味を持てるようにするためには、様々な手法が立案されているが、今回はカードゲーム方式を試行した。カードゲーム方式は1つのプロジェクトを達成する上で世の中がどのように連動しているかを知り、目標達成には周囲と連携をとっていく必要があることを体験的に把握することを目標としている。カードゲームでは、先ず、2人ずつ8グループを編成し、17項目の目標・169のターゲットからそれぞれ自由にテーマを設定し、行政・市民の協働視線で、人口・経済・環境・暮らしの指標で表現し、より良いまちを作ることをゴールとし挑戦した。

ゲームを体験し、社会・経済・環境・暮らしの繋がりという全体像を新たに感じられたことが一番大きな収穫であった。更に、私たちの身边にも緊急に対応しなければならない大きな変化が来ているということを知った。



しかも自分たち自身が考えて行かなければならない逃げられないテーマだと認識できた。残念ながら、一度の体験では表面的な感覚に過ぎず、今後ともこの種の実体験を得、視点を広げ思考や行動を変えていく必要があることを痛感した。

【知多ブロック 大橋 弘子】

あいち男女共同参画フォーラム 「男女共同参画について語る～これから進む道～」

11月20日(土) ウイルあいち4階ウイルホールで、講師の旭堂鱗林さんと、ワタミ株式会社SDGs推進本部長の百瀬則子さんをお招きして開催された。

旭堂鱗林さんは得意の出し物「藤井聡太四冠物語」で場を沸かせたが、「SDGsを自分ごとにする」という百瀬則子さんのご講演は、実にリアルであり、心に響くお話であった。会場ロビーに置かれた麦の軸ストロー(岩倉市で作られた物)について、「脱プラスチックの良い例である。これを地域だけにとどまらず、社会全体に広めていく、それが持続可能ということ」と、わかりやすく話を進められた。

百瀬さんは、1980年に男女雇用機会均等法が制定される前、ユニーに入社。大学卒の女性は百瀬さん一人だったという。売場担当、店長等々を経て、環境部長となり、やがて執行役員として経営の中に環境に配慮した商品の開発・販売を組み入れ、持続可能な社会の構築に向けた取組みに尽力し、退社後には中部SDGs推進センターの副代表のほかワタミに入社、執行役員兼SDGs推進本部長として、キャリアを重ね、ご自身が入社以来抱いてきた夢、「未来に生きる子どもたちのために責任を持つ」の実現ができたと言う。夢は持ち続けられれば叶う、と最後に言われた言葉にも実感があり、百瀬さんの言葉だからこそ、胸に沁みるものであった。皆に配られた「ワタミ環境レポート2021」には、ワタミグループのSDGsの取り組みが詳細に記されていて、そこに百瀬さんの真摯な姿勢を垣間見ることができる。【名古屋ブロック 清水たま子】



はなのきセミナーⅢ

楽しく学ぼう「多文化共生」



11月27日(土)14時から、愛知県青年協力隊を支援する会との共催で、JICA中部セミナールームで開催。

お二人の対談者、神田すみれ氏(愛知県立大学多文化共生研究所客員共同研究員)と江口由希子氏(青年海外協力隊OG)の話から始められました。

外国人が多いのは東京、二番目は愛知県、技能実習生は愛知が全国一。多くは日系ブラジル人、フィリピン人、ベトナム人などだそうです。

1920年代後半の政府の政策で留学生、研修生、介護要員等で増加。自治体は役所に通訳をおき対応するなどしているといいます。

私達、日本人はどうしたらよいのか、ゲストの名城大学名誉教授のアーナンダ कुमार氏(スリランカ出身、日本に40年間在住)は、「困っていることはありませんか」ではなく、「どこの国からですか。日本に来てくれてありがとうございます。楽しいですか」と問いかけ、友達になっていくことが大切。そして、日本人はもっと英語を勉強してください、と呼びかけられました。

質疑応答の時間には、はなのき会井上典子さんが、知立団地での多文化共生の例を楽しく話され場の雰囲気盛り上げられました。最後に伊藤久代会長が挨拶の中で、互いのアイデンティティを尊重し合うことだという経験談を披露して、セミナーを締めくくられました。【名古屋ブロック 松原美恵子】

皆さん、ご存じですか。はなのき会には、議員さん（現役・経験者）がたくさんいらっしゃいます。今回は栗田さんと白谷さんの登場です。議員さんのどきどきドキュメンタリーをどうぞお読みくださいませ。

尾張ブロック 元豊山町議会議員 栗田 昌子



①在任期数 5期【1999年（平成11年）～2019年（平成31年）】

②議員になる契機 6期務めた女性議員が転出のために、彼女から立候補を頼まれた。

◆任期中に主に取り組んだことは。

環境問題、障害者高齢者福祉、子育て支援、教育、男女共同参画、国際交流等。

豊山町は人口1万5千人程度の小さな町で、そこでの議員の仕事は、よろず承り業、生活密着型である。例えば、街路灯が切れているから見てきてほしい、カーブミラーを付けてほしい、転落防止柵を設置してほしい、違法駐車車両を何とかして！等々である。生活保護相談まで。住民と役所をつなぐ役目で、随分と良い勉強をさせていただいた。平成10年に介護保険制度が導入されたときには、私も理解不十分であり、役場の出前講座を利用して、住民の方々と勉強した。ごみ問題では、所属する消費者グループの仲間と役場の施策をけん引してきたが、京都議定書を受けて、さらに温室効果ガスを減らすために、分別の徹底や生ごみのたい肥化等やマイバッグを推進した。国際交流では、2009年（平成20年）1月、長年の願望であった交流組織を立ち上げることが出来た。

◆任期中に嬉しかったこと。

エポックメイキングなことは、豊山タウンバスを走らせたこと。鉄道のないわが町、当時、病院も他市町に依存していた。平成13年、名鉄バス路線廃止予告により、「通院の足がなくなる」と、不安の声が沸き上がった。そこで、一般質問に2度取り上げ、最後は、住民の方々と共に町長に直談判。その時、実現に向けて、大きな力を発揮してくださったのが、町の担当職員であった。ご尽力のお蔭で、補正予算に間に合い、名鉄バス廃止の、その日から、豊山町と小牧市、豊山町と名古屋市をつなぐ豊山タウンバスが走ったのである。栄の噴水北にある、豊山タウンバスの停留所を、あるいは、可愛い小さなバスを見かけた方もおられることでしょう。

もう一つ嬉しかったこと。国道41号線の横断で危険を経験した目の悪い方の申し出で、県に電話。信号秒数を延ばし、音声誘導装置も設置して頂いたことは大きな喜びでした。お年寄りの方々からも喜びの声が寄せられ、一人のためだけでないことを知ったのである。

議会で力を入れたのは議会広報。2期目の時、広報編集委員長を引き受けた。条件は、編集は事務局任せでなく、議員でやりたいが、それでよいか。議長の了解を得て、「議会だよりは議員のもの、自分たちで編集する」と、方針を変更した。企画からすべて、素人でこなすには苦労があったが、仕事をしたという実感があつた。読んでもらえる広報を目指して現在の議員たちも頑張っている。

◆苦労、悔しい思い 大失敗をした。議会改革特別委員会委員長として、定数削減をする。議員定数は、私の議員1期目は16人、2期目は14人、3期目は12人、4期目は10人に。実際に10人での議会活動には、問題もあることを知った。町の監査委員もしたが、各種委員会や消防、水道、衛生、火葬場等、他市と関わる組合議会がある。その上、任務を果たさない議員もいる。何よりも、民主主義では、大勢の、多様な意見が飛び交うことが必要だ。それが不足している。町民からの要望もあって、定数削減をしたが、定数削減が議会改革のすべてではない。後悔先に立たず。取り戻せない大失敗である。

20年間には、合併問題等、様々なことがあつた。議員引退に際して実感したのは、後継者探しの大変さである。女性が立候補することは、一大事。クオータ制の導入があれば、女性進出の後押しになるのではないかと思っている。

西三河ブロック 安城市議会議員 白谷隆子



安城市に生まれ育ち、半世紀以上たちました。きっかけとって良いのか分かりませんが、私が20歳になり、選挙権を与えられたこの年に父が安城市議会議員選挙に立ちました。父は、町内会長や商店街振興組合の理事長などをしていました。前任の地元議員が急死し、地域から次の議員が必要と父に白羽の矢が立ちました。決断に至るまで、悩んでいる姿を見ていましたが、断れなかったようで、選挙まであと4か月の家庭は雰囲気が一変しました。当時、選挙といえば「金が要る」と言われ、田んぼを一枚売ることが言われていた時代です。選挙では、3度の食事は、運動員がすべて終了後しかできず、選挙カーでは、人員が足りない場合いつでもスタンバイしておくように言われました。何度も街宣車には乗りましたし、お願いの電話も掛けました。結婚後もよく手伝いをしたのを覚えています。

当選後、父は3期、議員を務めました。この間、まだITのない時代、父の質問文を手書きで書き取り清書していたことを思い出します。議会の傍聴にも行きました。しかし、3期目の最終年度12月、父は脳梗塞になって4期目は断念となり、闘病後13年前に亡くなりました。原点は、なりふり構わず汗をかいて人のために動いた父の政治活動の姿です。

結婚後、私は3人の子どもの恵まれ、子育てをしながら家業（会計事務所）を手伝い、子育てが落ち着いたころ、「安城商工会議所女性会」「さんかく21・安城」に入会、この頃から、市民活動への興味がわきました。その後「生活協同組合」理事の仕事を通し、社会的な責任を勉強し、活動しました。「あいち国際交流はなのき会」の出会いも、大きな影響がありました。諸先輩の発言や行動は、自分に足りないものを知って勉強する機会になりましたし、外国で知識と経験を得た「スタディツアー」は、広い視野で考えることを学びました。その度に、自分の考える女性の政治参画や活躍促進を実現していきたいと思いました。

その後、様々な会で役員をし、壁につきあたり、人間関係に悩み、人生経験を積む機会をたくさんいただきました。地元では、町内公民館長と並行して人権擁護委員の仕事をしていただきました。経験が自信と信念となり、地元安城市をもっとよくしたい、女性の視点が足りない「女性の視点で安城をもう一步前へ」を掲げ、議員になることを決意しました。

立候補するという覚悟と地域や家族の理解を得るまで、説得に4年間かかりました。選挙はお金もかかりますし、落選した時のことを想定しなければなりません。しかし、そのあとの怖さを思っただけは何も始まらないと、後押しがなくても覚悟したのを覚えています。

当選後は、議員としての仕事、新しい学びや経験、決断を強いられることもたくさんあり、自分の時間がほぼ持てなくなりましたが、パートナーと共にボーイスカウトの指導をし、「ウィメンズネット安城」を立ち上げ、仲間と共に女性の自己実現のための活動をしています。議員一期生として、市民文教・産業建設委員を歴任し、今は、健康福祉委員会副委員長をしています。これから求められる政治家として、平和・平等・女性が活躍できる社会にするために、様々なケースを問題解決していきたいと思います。私の今一番力を入れたい分野は子育て・健康・福祉です。皆様のご指導をこれからもよろしくお願い致します

はなのき 2022 年度総会のお知らせです。2022 年度の総会は、4 月 16 日（土）9:30（開場 9:00）から、ウイルあいち特別会議室で行います。総会の後、「小さな大国アイスランドに学ぶ」と題して、元ノルウェー大使（アイスランド駐在）の夏目勝弘氏の講演会を行います。（ML にてお知らせを発信予定）

編集後記：3人で力を合わせて2年間取り組んで参りました。通信は皆様の原稿があつてこそ成り立ちます。どなたも快く引き受けくださり、誠にありがとうございました。とても楽しい2年間でした。

書記一同 井上典子、浅井恵子、向井あつ子